

本願寺帯広別院だより

〒080-0803 帯広市東3条南5丁目3 TEL: 0155 (23) 3720
FAX: 0155 (21) 4989 発行人: 輪番・石川勝紀

別院公式 LINE



除夜会 元旦会

昨年締めくくりの法要「除夜会」

には多くの方にお参りいただきました。お勤め、聴聞のあと、極寒にもかかわらず皆さんは列を組み、順に除夜の鐘をついて、手を合わされました。境内には別院職員が手作りした紙袋のランタンを多数設置し、幻想的な雰囲気皆さんの足元を照らしました。

なかには「除夜の鐘」帯広で検索すると高評価だったので来ました」という声もありました。

2026年最初の法要「元旦会」は1日朝9時に始まり、雅楽の演奏そして「正信偈」行譜を共ににお勤めました。

法要後、お参りの皆さんは晴れやかな笑顔で新年の挨拶を交わしておられました。

また今年も例年通り、帯広畜産大学馬術部の方々とお馬さんが元旦にお参りに来てくれました。

2月のご案内

月例布教
常例布教
宗祖月忌法要

1日(日) 2日(月) 13時半〈講堂〉
13日(金)～16日(月) 〈本堂・講堂〉
15日(日)～16日(月) 13時〈本堂〉

布教使 東海教区鈴鹿組存仁寺 山田教尚 師

3月のご案内

春季彼岸会法要

17日(火)～20日(金) 13時〈本堂〉

布教使 北海道教区十勝組真浄寺 永田弘彰 師

帯広別院役員新年会

1月20日(火) 17時から市内のホテルにおいて別院役員の方々と新年会を行いました。平素より別院の護持発展にご尽力いただいている皆さんと、和やかな雰囲気の中で歓談することができました。

本年も様々な会議や、資料配布、法要のお手伝いなどをお願いすることとなります。どうぞよろしくお願いいたします。



ビンゴ大会で、
景品を受けとられる役員の方



役員の方々に
ご挨拶する
石川輪番

“帯広別院公式LINE”の登録をお願いします!!

帯広別院が公式LINEを運営して1年になりました。1月末現在で約500名の方にご登録いただいています。ご登録はスマートフォンのカメラで左記のQRコードを撮影し、登録ボタンをタップするだけ。

毎月、本紙「帯広別院だより」や、各種行事のご案内が届くほか、講演会などの行事にもお手軽に申し込めるようになります。ぜひご登録ください。



講演会の予約はLINEで完了!

帯広別院にLINEで相談できるんだ!



ご法話



鬼は外？福は内？

文・石川勝紀

2月は「節分」を迎えます。節分とは文字通り「季節の変わり目」を意味します。季節の変わり目には邪気が入り込むと考えられ、豆まきによってその邪気を追い払う、古来より伝わる年中行事です。近年では、恵方巻を食べる行事も定着したようです。恵方巻は大正〜昭和初め頃に大阪ではじまり、それが1990年代頃、コンビニの販売戦略で全国に広まったといわれています。

さて、私たち浄土真宗の教えにおいては、「鬼は外 福は内」と鬼を追い払えば心安らかに生きられる、と考えるものではありません。親鸞聖人は『高僧和讃』の中で「五濁^{ごじよくあくせ} 悪世^{しゅじょう}の衆生^{しゆじやう}の 選択^{せんじやく} 本願^{ほんがん}信^{しん}すれば 不可^{ふか}称^{しょう} 不可^{ふか}説^{せつ} 不思議^{ふかしぎ}の 功德^{くどくぎ}は行者^{ぎやうじや}の身にみたり」とお示しくださいました。

私たちは、怒りや妬み、自己中心の思いといった「鬼」を、心の中に抱えたまま生きており、その「鬼」を追いつことはできません。しかし阿弥陀さまは、そのような私をこそ見捨てることなく、すでに救いのはたらきの中に抱いてくださっているのだと、親鸞聖人は明らかにされました。

節分の行事に親しみながら、鬼を排除するのではなく、「鬼を抱えたままの私」が救われているという事実、静かに耳を傾けていく。そこに、浄土真宗の節分の受けとめ方があるのではないのでしょうか。

その気づきの中でこそ、日々の出来事一つひとつが、阿弥陀さまの願いに照らされた尊いご縁として、私たちに受け取られていくのだと思います。

2月 オススメの一冊



『いつでも会える』

菊田まりこ 著 白泉社 (新装版)

四六変形判 / 48頁
1100円 (税込)

主人公のシロは、みきちちゃんのイヌ。シロは、みきちちゃんがだいすきで、いつも楽しくて幸せでした。ところがある日突然、みきちちゃんが亡くなってしまったのです。「どこにいるの？ シロってよんで。あたまをなでて」とみきちちゃんをさがします。シロは寂しくて、悲しくて、不幸になりました。すると、シロにみきちちゃんの懐かしい声がきこえてきました。「シロ、シロ。もういつしよに、あそべなくなつたね（……）でもね、そばにいるよ。いつでも会える。今もこれからもずっとかわらない」と。シロは気付きます。「みきちちゃんに会えた。目をつむるとね、みきちちゃんのこと考えるとね、いつでも会えるんだ（……）ぼくらはあの時のまま」と。受け入れがたい悲しみ苦しみを抱えながらも、その死を受け入れ、乗り越えようとする姿に心が動かされます。（後藤）

永代経懇志ご進納

(ご進納日 12月15日～1月14日)

①モチ米を前日から
浸水させて、蒸し

②臼と杵を
前日から水にひたし

③臼と杵を
熱湯であたため

④アツアツの米を
杵で丁寧につぶして

⑤つく

⑤つく

⑤つく

笑顔あふれる

YBAもちつき大会

1月10日(土)、

YBA(仏教青年

会)でもちつき大

会を開催しました。

きっかけは中学生たちが「もちつきをしたことがない」「もちつきをしてみたい」と言ったことでした。

思えば、以前は年末ともなると、別院で毎年数10キロのもちをついていたのですが、コロナ禍以降はでき

ていませんでした。別院とし

ても久しぶりの開催となった

もちつき大会。5歳児、小学

生、中学生、そして近隣地域

の方々、あわせて26名が集ま

りました。

中学生たちは最初、「杵が

こんなに重いとは思わなかつ

た」「腕が痛い」と後悔した

ようでしたが、まわりの声に

励まされ、いつの間にか表情もやわ

らいで、力いっぱいもちをつき、上

手くつけた時は満面の笑みでした。

つきあがったら、もちを丸め、砂

糖醬油やきな粉やあんこで味わいま

した。「つきたてのもちってこんなに

おいしいの?」「みんなでついたから

おいしいんだね」と、温かな雰囲気

に包まれました。

SNSの写真や動画では簡単そ

うに見えたもちつきが、事前準備や、

杵の重さ、後片付けなど、大変なこ

とも皆で経験できました。

実体験が価値になり、やがて自分

の口で誰かに伝えられるようになる

んだと、中学生たちの活き活きとし

た目が語っていました。

YBAでは今後もこうした行事を

通して、若い世代や地域の皆さまが

交流し、様々な経験ができる場を大

切にしていきたいと思っています。

(松原)

自他ともにたい
せつな言葉紹介 **人我兼利** じんがけんり

たいきせつぼう
対機説法 (釈尊)

お釈迦さまは29歳で出家され、35

歳で悟りを開かれました。それから

80歳で涅槃に入るまでに多くの説法

をされています。お釈迦さまの説法

は対機説法とか、応病与薬ともいわ

れます。

対機説法の「機」とはお釈迦さま

がお話しをされる相手、つまり聞か

せていただく私たちのことです。私

たち一人ひとりの環境や、今現在の

状況を機といえます。お釈迦さまは

相手の立場に立ち、確実に理解し実

践できるよう、機に見合ったお話を

されました。それが、聞き手に一番必

要な説法「薬ともいわれる由縁です。

教えの数は八万四千あるといわれ

ていて、それぞれの「機」にあった

お説法をされたお釈迦さまは本当に

偉大だと感じます。

(桐林)